

議長定例記者会見 会見録

日時：令和7年11月11日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

○2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」にかかる県民投票の実施について

2 質疑項目

○2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」について

○常任委員会における発言の取消し・訂正について

○全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～について

1 発表事項

○2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」にかかる県民投票の実施について

（議長）改めまして、おはようございます。ただ今から、11月の議長定例記者会見を始めさせていただきます。本日は、2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」にかかる、県民投票の実施について、発表させていただきます。お手元に配布の発表事項1の資料をご覧ください。三重県議会では、1年間の主な活動を振り返る「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」を12月下旬に発表します。今回も、選定にあたっては、県議会の活動内容を広く発信することで、県民の皆さんに県議会への関心を高めていただくとともに、県民の方自身が投票することによって、県議会への参加意識も高めていただくという観点から、県民投票を実施します。まず、投票期間は11月11日火曜日から12月10日水曜日までの30日間です。次に、投票方法は、県議会ホームページのトップページから案内する投票フォームを開き、資料1ページの3に掲載しました候補のうちから、最大10項目にチェックを入れ、投票していただくという方法になります。最後に、決定・発表につきましては、資料3ページの4に記載のとおり、同時期に実施する県議会傍聴者、e-モニター、県議会議員による投票結果も参考に、正副議長により決定し、12月24日の議長定例記者会見で発表をいたします。報道機関の皆さまにおかれましては、より多くの県民の皆さまに投票していただけるよう、PR等ご協力をよろしくお願いを申し上げます。以上でございます。

2 質疑項目

○2025年「あなたが選ぶ！三重県議会の活動ベスト10」について

（記者）すいません幹事社です。この「県議会の活動ベスト10」なんですけれども、これ、いつ始まったものになるんですか。

（議長）事務局から申し上げます。

（事務局）平成19年から似たような取り組みは始めておりますが、今の形、「三重県議会の活動ベスト10」というタイトルで、このやり方でやってるのは、令和2年からです。何回かちょっとリニューアルしてますので、原型は平成19年、2007年。今のタイトル、やり方になったのは、令和2年、2020年でございます。

（記者）ありがとうございます。

（記者）2点目なんですけれども、今回、全部で22項目選ばれてると思うんですけど、これはどのようにして選定されたものになるんですか。

（議長）われわれのほうで、正副議長で今までのところの政策とかいろんな出来事をしっかりと精査させていただいて、私たちが選ばせていただきました。

（記者）ありがとうございます。あと最後なんですけれども、このベスト10に選ばれた取り組みってのは、何かこう、何かに掲載したりとかっていう予定があったりするんですかね。この活用方法。

（議長）県民の皆さまがどのように県議会に対して、活動に対して、お考えを持っておられるかとか、意識を持っておられるかといった状況をわれわれもやっぱり把握をさせていただきたいなという思いで、今回のベスト10選びをさせていただきたいと思います。あと実際、やっぱり県民の皆さまや私たち県議会もちろん投票するんですが、実際に、県民の声がそこに少しでも反映をさせていただいて、われわれもまたこれからの議会活動にまい進していこうと、このような思いでやっております。

（記者）ありがとうございます。と、もしわかればでいいんですけど、去年はどれくらいの投票があったんですか。

（議長）昨年ですか。事務局お願いします。

(事務局) 昨年は、投票者総数は1,234です。

(記者) なんか県議会議員とか。

(事務局) すべて含めて1,234でございます。

(記者) ありがとうございます。幹事社から以上です。各社さん、いかがでしょうか。

(記者) これベスト10ということで、ベスト10でね、要は、良い活動を選んでもらうという趣旨ですね、これ。良いいっていいんですかね。例えば、良い以外に例えば印象的だったとか、これからの課題だということであつたりとか、大きなニュースになったこと、投票される方はどういったものを選べば良いか、どういった感覚で、どういったものを選んで欲しいのか、というといかがでしょうかね。

(議長) 県民の皆さんがどこに一番お考えが集中しておられるのか、われわれの活動が評価されていくのかというようなところも考えていかなきゃいけないのですから、そういったところと、データが私たちも、この投票していただくことによって、先ほどもお話しましたけども、これからの活動にやはり重要なことであろうという思いでやっております。

(記者) 投票方法のそこには、良い活動だと思うものというふうに、投票方法にはね、良い活動だと思うものを書いているんです。で、なぜこの質問をしたかという、三谷さんがお亡くなりになって議会葬開かれたと。このことについてですね、非常に大きなニュースにもなりましたし、皆さん話題として認識は、お話としては認識しておられると思うんだけど、投票方法にやはり良い活動というふうに書いてあるとですね、これ非常にこう印象的で、多くの方参列してというふうな状況がありましたから、これ印象的だと思っても、良い活動と書いてあるとなかなか選びにくいのではないかなという気もいたすんですけどもいかがでしょうか。

(議長) ご指摘のとおりだと思います。私たちも、三谷議員の非常に実績とか、そういうお人柄とか、そういったことで見習うことが多かったものですから、議会葬という形でさせていただきました。そういった意味で、もちろん三谷議員がお亡くなりになったことは非常に寂しいことでもございますので、その点は今、こういうふうを選ぶ、良い活動、良い政策とか、そういうような意味合いでわれわれここに、今、自分では良い活動、政策っていうお話をしましたけども、そう

いったことで出させていただくわけではありませんので、実際に、われわれが今までこの1年間通じて活動してきたこと、そしてまた、県民の皆さまがそこに、三谷議員をしのぶということで議会葬をしたんだなというところも私たちの気持ちも含めて、今ここに掲載をさせていただきました。そういった意味では、県民の皆さまには議会葬自身が良いのか悪いのかということではなく、やはり1年間を通じて一番の私たちの記憶に残るといいますか、非常に大事なお方が亡くなったんだという思いで、私も議会葬を葬儀委員長としてやらせていただいたわけですので、その点が一番、あなたが選んでこの記事は、ということで、選んでいただくということを、意味合いをもっと強くやらなきゃいけないなど。添えなきゃいけないなど、言葉を。議会葬のことに関しても、ちょっと言葉を添えて、お悔やみを申すわけなんでございますけども、こういう出来事がありましたよ、この出来事が、こういうことをしたんだというふうに選んでいただければ、私はありがたいかなと思います。

（記者）必ずしも良いというふうに、良いものだけを選ぶというか印象的だったものも、広く解釈してもいいということになりますね。

（議長）よろしくお願いいたします。

（記者）その上で、投票前に聞くのもあれですけど、議長としては、今年、特にここ、選ばれた項目の中で印象的だったものというのはあるんでしょうか。

（議長）三谷県議の議会葬、これは私にとりましても、この1年間といえますか、通じて、今まで経験のない状況の中で、皆さんで送っていただいた。それが非常に印象的でありますし、記者がおっしゃった、良いものを選ぶんじゃなくて、一番記憶に残るものを選んでいただければありがたいかなと思いますので、私は三谷議員の議会葬が一番、私自身、個人としては一番印象に残っております。

（記者）副議長はいかがですか。

（副議長）私も、近年なかったことでございますし、同じ会派で大変お世話になった方でもございますので、やはり強い印象としては、もちろん残っております。が、あまり投票に影響したらあきませんので、そんなに具体的に、いろいろとは申し上げたらあかんかなと思います。すみません。

（記者）各社さん他にはいかがでしょうか。それでは発表項目外に移りたいと思います。幹事社からは特にありません。各社さんいかがでしょうか。

○常任委員会における発言の取消し・訂正について

（記者）先日、四日市市のくすの木パーキングの関係で、いわゆる委員会の中で県議が、山崎県議がですね、議事を訂正するという事案ございました。四日市市長も議長室にいられて抗議をされてましたけれども、改めて今回の一連の流れについて、議長として所感がありましたらお願いします。

（議長）実際に、四日市のほうで豪雨災害があった時点は、夜中の状況の中で起きた災害でありますので、なかなか市、県も対応が難しかったんだろうなと思います。ですが、やはり議員が、常任委員会で発言をしたりするときの状況というのは、やはりそのところの、きちっとした調査をして、確実なものを捉えて常任委員会で発表する、意見を言う、これ非常に重要なことだと思うんですね。山崎議員も現場でしっかりと対応しておられたということは事実でありますし、そこで市、県という、活動がなかったような、これは言葉は悪いですけども、間違いの中で、来なかったとかいなかったというような、この広い災害現場の中で起きたことでありますので、そこの一つの場所にはなかなかたどり着けなかったと、私は市の方も、県の方もそうだと思います。それを全然来てなかったような言葉で、常任委員会という重要な、公的な委員会の中で発言をされるのは良くなかったんだろうと思います。彼も常任委員会でしっかりと述べていただいて、そして議事録の訂正もしていただいたということでもありますので、それも正副議長で確認もさせていただきました。そういった意味で、初動対応と、その辺のところを、彼も防災士の免許を持っておられるということも聞いてますので、しっかりと対応しなきゃいかんという気持ちから出たんだろうと思いますので、そういった意味では、常任委員会でも皆さんがご理解いただいて、議事録訂正ということをしていただきましたので、あえて私のほうから申し上げることはございませんが、常任委員会の正副委員長にもお世話になりましたということでもあります。また、森市長から抗議文が私のほうに参りましたので、私のほうに先に抗議文が来たということもありまして、正副議長から常任委員会へしっかりと申し送りをしなきゃいかんというところで、話をさせていただいて、常任委員会に振らせていただきました。もちろん、抗議文は私のほうに来ておりますので、私のほうからまた森市長のほうにもお話をさせていただかなきゃいけないのかなとも考えております。

（記者）ありがとうございます。

（記者）すみません。関連してよろしいでしょうか。何か議事録の訂正だったり、取り消しを受けて森市長から何か反応っていうのはあったのでしょうか。

（議長）私のほうにも、正副議長のほうにも、連絡が森市長からも来ております。

そして、日程はまだ未定でございますけども、森市長が私達のほうに来られるということでありまして、その点、議事録の訂正、文言訂正、削除というところの常任委員会のやり方が、やり方というのはおかしいんですが、常任委員会で判断をしたことに関して、森市長からお話がある予定でございます。まだ日程は決まっておりますが。

（記者）それは何を目的とした面会になるんですかね。

（議長）それは、森市長からも内々ではございますけども、早く対応していただいてというような、われわれの常任委員会のことが、言葉悪いですけど、感謝の気持ちで来られるんだろうと思います。感謝というよりもお礼のことだと思いますが。早期対応というのは非常に重要であったということだと思います。

○全国豊かな海づくり大会～美し国みえ大会～について

（記者）ありがとうございます。各社さん他には。

（記者）全国豊かな海づくり大会。土曜日から議長も鳥羽市に入られて、両陛下をお迎えになって、最後、おととい、日曜日もお見送りに立たれましたけども、両陛下とどのようなやりとり、会話があったか。いかがでしょうか。

（議長）8日の鳥羽の駅でお出迎えを知事と一緒にさせていただきました、8日9日の全行程を、知事と共に両陛下に随行させていただきました。非常に名誉なことだなという私の思いでございます。どのようなお話しをされたかということでもありますけども、どういった印象であったかということをお願いいたします。

（記者）どういった印象でしたでしょうか。

（議長）ありがとうございます。鳥羽水族館でお二人がずっと見学をしていただきました。ラッコの水槽のところで、お二人は笑顔でラッコの動作、動きを見て、非常に楽しんでおられたのが印象的でありますし、それと、皇后陛下が、ラッコがいろんなしぐさをするのに一緒に手を振っておられたのが、非常に皇后陛下のお優しいお気持ちが伝わってきたような。その皇后陛下の対応を天皇陛下がにこやかにご覧になっておられたというのが印象的でした。もちろん、天気も良かったもんですから8日は。それからずっと賢島のほうへ一緒に随行させていただいてホテルへ到着ということであります。一番印象にあったのは、小さな児童、小学生、中学生、高校生の生徒さんに対してお心遣いといいますか、非常にお優しい言葉でお話しをされるというのが非常に印象的でありますし、

児童の方、生徒さん、中学生、高校生の方もしっかりとお答えをされておられたというのが立派だなとも思いますし、その辺のところをずっと時間を、あと迫ってきている時間を全然考えないで、お一人お一人にゆっくりとお話をされているというのは、非常に素晴らしい天皇皇后両陛下だなと感じました。それと、どういってお話しかと言いますと、ちょうど最後は、一番印象に残っている言葉は、最後の日の賢島駅でお見送りに行かせていただいたときに、私と知事と県警本部長と3名がお時間をいただいて、両陛下に拝謁と言いますか、そういった時間をいただきました。応接セットが置いてありまして、私たち3名座らせていただいて、両陛下座っていただいてお言葉を掛けていただきました。そのときに、議長はどちらのご出身ですかという天皇陛下からのお話しがございまして、その時に、知事が三重県三重郡菰野町なんですがとお話しをいただいて、私は菰野町なんですということで、菰野町には御在所岳がございませぬということをおっしゃって、藤内壁とか、そういったロッククライミングの素晴らしい場所がございませぬということをおっしゃいましたもんですから、本当に嬉しかったなと思います。やはりご存じでおられたんだなとも思いますし、このようなこと言ったら失礼なんですけども、陛下とご一緒にロープウェイで上がらせていただいて、御在所のほうを散策いただけるとありがたいんですがということをお願いさせていただきましたら、にこっと笑っておられて何も申されませんでした。それがちょっと言ってはいけないお話しが分かりませんが。それと、県政の150周年を来年迎えますということも報告をさせていただいて、われわれ三重県が150年の歴史の中の、イベントを、PRを全国に示す年代でございませぬので、その点また、天皇皇后両陛下とまたよろしく、あのときに何か言ったのかなと、言葉がなかなか出なくて、その点、よろしくお願い申し上げますというお話しをしたように思います。天皇陛下、皇后陛下がまたご来県いただけるとありがたいかなという気持ちでお話しをさせていただいたんですけれど、そういったことは無理なかなという思いでございませぬ。よろしいですか。

（記者）副議長もご一緒に。議長と一緒に同行されたのでございませぬか。

（副議長）私は一般の議員と同じ扱いでしたので、鳥羽駅のお迎えと、南伊勢町の放流行事に出させていただきました。

（記者）分かりました。ありがとうございます。

（記者）各社さん、いかがでしょうか他には。以上で終わりたいと思います。ありがとうございます。

（議長）どうも、ありがとうございました。

(以 上) 10時55分 終了